

登録コード:MH632100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	中枢神経解剖学【理作20M以降】 Human Neuroanatomy			
担当教員	寺田 信生			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻、作業療法学専攻 1年 後期 月曜・5時限			
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。		人体構造からなる人間の営みの理解から、ヒトの尊厳について考えながら患者に接することができるようにする。	
	MH25カリ・保健・理学、MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		人体構造を分類しながら説明できるようにし、これらが連動しての人体を理解して病態への理解につなげていくことができる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		人体構造の実体に基づいて、新事実も理解しながら科学的に対応できる心構えを持って医療が行えるようにする。	
	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	前期の「系統解剖学」の授業で神経系の概略を理解しました。本授業では、人体の全身を始めとして脳および脊髄の中枢神経系について、さらに詳細に構造を機能と関連付けながら理解することを目的とします。また、神経系として中枢神経から連動する末梢神経系や筋肉の構造も合わせて、実体に基づいて説明できるようにします。 本授業は、1年時に学ぶ「生理学」「組織学」「生化学」などと合わせて人体のしくみを理解し、さらに病態を学んでいくための重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医学における人体解剖知識の基礎から病気の診断と治療の臨床にわたって、医師としての実務経験を活かして講義と実習を行います。 本授業は、人体の理解を通して男女の個人としての人権の尊厳についても学ぶ、男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第1回（9月28日）肉眼解剖、中枢神経解剖の説明 第2回（10月5日）脳髄膜、脳の血管（肉眼解剖の説明） 第3回（10月14日(水)）脳神経（肉眼解剖実習の説明） 第4回（10月19日）延髄、橋、第4脳室、小脳（肉眼解剖の説明） 第5回（10月26日）中脳、間脳、第3脳室（肉眼解剖の説明） 第6回（11月2日）大脳(1)（肉眼解剖の説明） 第7回（11月9日）大脳(2)、側脳室（肉眼解剖の説明） 第8回（11月16日）神経伝導路（肉眼解剖の説明） 第9回（11月26日(木)）前半のまとめ、中間試験 （適時、肉眼解剖学実習の解説も合わせて行います。） *ここからは、9回までの知識に基づいて、ご献体の脳を使って実習（スケッチやグループでの確認、討論）を行う。手順は、テキストに沿って行う。 第10回(11月30日) 実習1（脳の概要、くも膜、動脈） 第11回(12月7日) 実習2（脳神経、中脳、橋、延髄） 第12回(12月14日) 実習3（小脳、第4脳室、菱形窩） 第13回(12月21日) 実習4（第3脳室、間脳、大脳の概観） 第14回(1月4日) 実習5（大脳辺縁系、連合線維、レンズ核） 第15回(1月18日) 実習6（側脳室、視床、尾状核、大脳の断面）、授業アンケートの実施 第16回(1月25日) 期末試験			
授業の進め方	第1～9回では講義を中心に、第10～15回では脳解剖実習を行います。 具体的には、第1～9回では、全身の人体解剖と脳解剖の概要について説明します。 第10～15回では、脳の構造と機能を自ら説明できるように、「人体解剖学実習」と同じグループに分かれて、ご献体から取り出した実物の脳を用いながら、講義（脳の各部位の詳細な説明）と実習（実際の脳部位を確認）の形式を組み合わせながら理解を深めます。			
テキスト、教材、参考書	テキスト：次の3冊を使用します。 解剖実習の手引き（南山堂）； 「肉眼解剖学実習」と共用。 プロメテウス 解剖学コア・アトラス（医学書院）； 「肉眼解剖学実習」と共用。 病気がみえる Vol.7 脳・神経（MEDIC MEDIA）			
成績評価の方法	授業中の口頭試問（グループ討論内容を含む）(10%)、レポート内容(10%)、中間試験(40%)、期末試験(40%)を行って判断します。 試験では、正確に人体構造を把握して名称を覚えて実物で指し示すことができ、その部位の機能を関連付けられるようになっているかについてを確認します。試験の結果については、実施後にフィードバックします。			

成績評価の基準	成績評価判定基準は下記のとおりです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、授業・実習の終わりに、次回までに調べてくる内容について説明を行います。 [事後学習について] 毎回、授業・実習中に、前回の授業・実習の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して臨んでください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実体として脳の構造を正確に理解することによって、人体の神経や精神行動をもたらししくみや、それらの異常によって起こる神経や精神疾患を理解したり説明していくことができますと思います。 尊い御献体を用いさせて頂いて人体を本物で理解ができる貴重な実習があるので、集中して学修しましょう。 質問への対応：寺田 信生 nobuot@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：対応時間は、上記メールアドレスに確認してください。 保健学科南校舎3階 寺田研究室